

1 鉄キレート剤投与における UIBC 測定値
2 への影響
3

4 ○大野さやか 清宮正徳 吉田俊彦 荒井満恵 澤部祐
5 司 野村文夫（千葉大学附属病院検査部）
6

7 **【背景および目的】** 再生不良性貧血や骨髄異形成症
8 候群などの骨髄不全症候群において、難治性貧血治
9 療のための頻回の赤血球輸血を必要とする症例では、
10 輸血後の鉄過剰症による臓器障害が問題となる。鉄
11 キレート剤はこのような体内の過剰な鉄をキレート
12 して体外に排泄する目的で投与される。近年これら
13 の薬剤が投与された患者において、血清鉄および
14 UIBC の測定値が正の影響を受けることが報告され
15 たため、当院においても影響の確認を行った。

16 **【方法】** 鉄キレート剤は経口用エクジェイドおよび
17 注射用デスフェラル（いずれもノバルティスファ
18 ーマ）を用いた。通常投与時の薬物血中濃度を参考
19 に各薬剤をプール血清に添加し、血清鉄、UIBC、フ
20 ェリチンを測定した。測定試薬はクイックオートネ
21 オ Fe, 同 UIBC (シノテスト)、および FER-ラテック
22 ス X2(デンカ生研)を用い、日本電子 BM2250 自動分
23 析装置で分析した。

24 **【結果】** 血清鉄およびフェリチンでは薬剤添加の影
25 響が認められなかった。一方 UIBC では、エクジェイ
26 ドの終濃度 $225 \mu\text{mol/L}$ において $140\text{--}228 \mu\text{g/dL}$ の、
27 またデスフェラルの終濃度 $150 \mu\text{mol/L}$ において
28 $289\text{--}437 \mu\text{g/dL}$ の、それぞれ正の影響を認めた。

29 **【考察】** 鉄過剰症患者における体内の鉄の沈着状態
30 および治療効果の把握には血清フェリチン値が最も
31 有用とされるが、同時に血清鉄や UIBC の依頼もされ
32 る場合がある。今回の検討では、鉄キレート剤の添
33 加により UIBC は著しい正誤差を受けた。また、体内
34 の鉄をキレートした薬剤が血中に存在する場合は、
35 血清鉄においても正誤差を受ける可能性がある。従
36 って鉄キレート剤投与中の患者においては血清鉄お
37 よび UIBC の測定値は正確な鉄動態を反映しない可
38 能性が高いことから、検査の実施を控える必要があ
39 る。 連絡先：043-226-2328